

3/22
開
庁
式

3月22日、舞鶴市西消防署の開庁式を実施しました。関係者約80人が出席し、式辞や工事の経過報告、来賓祝辞に続き、テープカットで新たな門出を祝いました。式典後は、消防隊員による訓練を披露し、最後に庁舎説明を兼ねた見学会を実施しました。



テープカット



西消防署に配置の水陸両用バギー

府内消防庁舎初！
舞鶴市内の公共施設初！
工庁舎

環境にも優しい
ZEB Ready 庁舎



新しい西消防署は、京都府内の消防庁舎および舞鶴市の公共施設では初となる「ZEB Ready」認証を受けた庁舎です。高断熱性や省エネ設備の導入により、消費電力を抑えるとともに、太陽光発電による創エネ（エネルギー創出）を組み合わせることで、基準となる平成25年に比べて50%以上の節電を実現します。環境に優しい設計の庁舎で節電と脱炭素化を同時に進めていきます。

「新・西消防署」供用を開始！



令和6年度から行っていた舞鶴市西消防署の移転工事が完了し、2月21日より供用を開始しました。水害の多い西地域の特性に合わせ、最新設備の導入と広域連携を備えた「災害に強いまちづくり」の拠点施設として、これからも地域の皆さんの安全安心をより一層守り続けていきます。 《消防本部》

新庁舎の特徴

新庁舎では、多様化する災害に対応するため、新たな設備を導入し、防災機能を強化しました。

迅速な救助体制を構築

◆ヘリポートの新規整備
敷地内にヘリポートを新設しました。これにより広域的な救助活動や緊急搬送に対応できる体制を整えました。

特殊消防車両の配置

◆特殊消防車両の配置
大型の特殊消防車両を配置・運用が可能なスペースを確保しました。これ



配置している消防車両

により多様化する災害に対しても、迅速な対応が可能となりました。

地域特性に応じた車両を配置

◆津波・大規模風水害対策車
由良川に近い西地域の特性に合わせ、新たに「津波・大規模風水害対策車」を配置しました。

25層級はしご車

◆25層級はしご車
綾部市と共同運用する大型のはしご車を配置しました。綾部市に近接する西地域の立地を生かし、自治体の枠を越えた広域連携体制を構築しました。

大規模災害などの停電時に対応

◆3日分の燃料備蓄
大規模災害による停電時でも機能を維持できるように、エネルギー備蓄体制を強化しました。自家発電設備を整えたほか、東消防署は「LPG（液化石油ガス）」、西消防署は「軽油」と異なる燃料をそれぞれ

地域防災力の向上

◆訓練施設を新設

一般住宅を模した「街区訓練施設」を新たに設置。「実際の現場」に近い状況での消火や救出訓練が可能になりました。地域の消

約3日分備蓄しています。備蓄する燃料の種類を分散させることで、不測の事態においても両署が同時に機能を失うリスクを回避し、消防機能を維持します。



訓練施設として使用可能

防団も訓練の場として利用でき、地域全体の防災力を向上させることができます。